

25年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 8月20日～ 9月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 19.2	38.5	3.8
	マツ	△ 37.5	0.0	0.0
	広葉樹	△ 43.8	△ 25.0	△ 12.5
消費動向	スギ・ヒノキ	4.2	△ 8.3	△ 8.3
	マツ	△ 27.3	△ 4.5	0.0
	広葉樹	△ 3.3	0.0	3.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 19.2	0.0	3.8
	マツ	△ 20.8	0.0	4.2
	広葉樹	△ 46.9	△ 28.1	△ 25.0

チップ原木の入荷動向は、スギ・ヒノキは9月のマイナスから10,11月はプラスに、マツは9月のマイナスから10,11月は横ばいに、広葉樹はマイナス基調で推移。
消費は、スギ・ヒノキは9月のプラスから10,11月はマイナスに、マツは9,10月のマイナスから11月は横ばいに、広葉樹は9月のマイナスから10月の横ばい、11月はプラスに。
在庫は、スギ・ヒノキ、マツともに9月のマイナスから10月の横ばいを経て11月は小さなプラスに、広葉樹はマイナス基調で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ	△ 4.2	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	3.3	0.0	0.0

チップ原木価格は、スギ・ヒノキは9月の小さなマイナスから10,11月は横ばい、マツは横ばいで推移、広葉樹は9月の小さなプラスから10,11月は横ばいに。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギ、ヒノキは国有林システム販売、民有林材、支障木が消費より少し多いペースで入荷。広葉樹は支障木主体に変わりなく入荷。マツはそれほどの量の入荷なし。消費は製紙用でスギ、ヒノキ、広葉樹に増産依頼あり能力一杯の生産。暫くはこの量の生産続くと期待。間伐材証明のあるスギ、ヒノキはFIT対応の発電用に消化し始めている。消化量増えているが入荷も多く在庫は増加気味。間伐材は分別保管しており発電用燃料チップの受注増を期待。 ・仕入れ、在庫ともマツは増加、カラマツは減少。 ・仕入れ、販売は前月同様。在庫は先月の異常な暑さと盆休みのため広葉樹在庫は8月末で約2割減の状態。 ・スギは注文増加、生産増、在庫減、広葉樹はチップ生産量割り当てに基づいた原木の仕入れ。 ・スギ、ヒノキチップの入荷ストップ、広葉樹は猛暑、後半雨で現場作業遅れ仕入れ少ない、在庫は8月減ったが9月以降少しづつ増加予定。 ・針葉樹は横ばい、広葉樹は開発現場減で入荷減。針葉樹の消費は製紙各社の使用量上がらず引き取り低調、広葉樹は入荷即使用している。針葉樹在庫は使用より入荷多く在庫増、広葉樹は在庫なしのその日暮らし。先月入荷少なかったのが今月は増加、在庫は入荷減で減少。 ・豪雨で作業道が寸断され入荷が落ち込む、消費は盆休みも終わり順調、在庫は8月の落込みをどこまで回復するか。

(原木価格)

・動きなし。 ・スギ・ヒノキは変動なし。 ・6月から針葉樹のみ値下げし9月も同額。 ・針葉樹、広葉樹とも変更なし。 ・前月同様。 ・変動なし。 ・針葉樹、広葉樹とも横ばい。 ・広葉樹は他社と合わせたため、9月少し上がったが、以降横ばい。 ・変動なし。

25年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
生産動向	スギ・ヒノキ	12.5	△ 16.7	△ 12.5
	マツ類	△ 4.5	△ 4.5	△ 4.5
	広葉樹	△ 6.7	3.3	3.3
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 16.7	△ 12.5
	マツ類	△ 18.2	△ 9.1	△ 9.1
	広葉樹	△ 13.3	△ 3.3	△ 3.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 5.0	0.0
	マツ類	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1
	広葉樹	△ 33.3	△ 25.0	△ 25.0

木材チップの生産動向は、スギ・ヒノキは9月のプラスから10,11月はマイナスへ、マツは小さなマイナス基調で推移、広葉樹は9月のマイナスから10,11月は小さいプラスへ。
出荷動向は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹ともにマイナス基調で推移。
在庫は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹ともにマイナス基調で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し) W.

品目	25/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

チップ出荷価格は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹ともに横ばいで推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)・製紙用はスギ、ヒノキは製紙会社の受入制限で生産、出荷とも減、在庫増、MDF販売安定し生産・出荷横ばい、燃料用は受け入れ制限あり、生産・出荷減、在庫横ばい。マツ、広葉樹入荷数量少なく出荷横ばい、在庫少ない。・スギ・ヒノキは変動なし。9月末はやや減少、10,11月は変動なし。・9月からスギ、ヒノキチップ35%、広葉樹チップ60%という出荷割合が確定したため、原木の仕入れを要請している。・出荷は針葉樹チップが増加傾向にあるが、輸入チップとの関係でどうなるか分からない。・年末頃から燃料チップ増産の見込み。・製紙用で針葉樹、広葉樹ともに増産依頼ありフル生産。FIT対応の間伐材等のチップ出荷が少しずつ始まる。チップの在庫はない。・生産、出荷は前月同様。10月は木材持ち込み業者の稲刈りもあり広葉樹在庫は減ると予想。・スギチップを繊維状に加工(粗飼料・敷料用に製造販売)し、家畜用として出荷。広葉樹は取引先計画数量の生産、出荷。・出荷予定の前後はあるが月内納入実施。・針葉樹は出荷量抑制され生産調整継続、広葉樹は入荷即生産。針葉樹の出荷は製紙各社の使用量上がらず引き取り低調、広葉樹は抑制無く全量引き取り中、燃料用(解体材)は1社がボイラー定修で抑制中、その他は横ばい。針葉樹在庫は横ばい、広葉樹在庫なし、燃料は入荷多く出荷量増えず在庫増。

(木材チップ価格)・各製紙会社とも上期は値下げなかったが、下期は分からない。円安で燃料が値上がりしており輸送コストの面で厳しい。・発電用間伐材チップはもう少し上がるべきと思うが、全く変化なし。・前月同様。・変動なし。・針葉樹、広葉樹とも横ばい。・円安で値上げ期待感あったが原油高騰、電気料値上げ等で価格変動なし。